

令和四年度 定時総会報告

六月一日（水）に定時総会が、通常の形で三年ぶりに開催されました。

松平頼昌会長からは、

「令和四年度は、今後の日本の教育の大きな節目に来ているのではないかと思っており、今後、国や香川県



教育委員会の動向を踏まえ、会員の皆様の真摯な声をさらに反映できる教育会でなければならぬと考えている」という内容のメッセージを頂き、副会長が代読をいたしました。

会長の挨拶に引き続き、会員退職者代表として淀谷圭二様に、役員等功労者として、平成二年度より代表理事（会長）を三十二年の長きにわたりご尽力された松平頼武前会長をはじめ、金子之史坂出市教育会会長、須佐美恵五小豆郡教育会会長、岩倉道夫三・観教育会会長、吉田誉範PTA連絡協議会会長、下河芳樹監事の六名に感謝状と記念品を贈呈いたしました。

この後、ご来賓の香川県知事浜田恵造様、香川県教育委員会教育長工代祐司様から祝辞を頂きました。

議案決議では、①令和三年度事業報告②令和三年度会計決算報告・会計監査報告③令和四年度理事・監事の改選案④令和五年度からの会費値上げについて承認されるとともに、令和四年度事業計画並びに会計予算について報告がありました。

できる環境を整え、全ての教科においてそれぞれの特質に応じて情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図ることである。

各教科の具体的な授業づくりだが、国語科では改訂の趣旨及び要点で「急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出し、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている」。また、国語科の目標及び内容で「話や文章に含まれている情報と情報の関係を捉えて理解したり、情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要」とある。ある教科書では、四年ではカードに書き出して情報整理し、五年ではそれを関連付けながら全体として整理する、さらに六年では一つのカードに関連付けた内容を整理、という教材がある。四年では調べた情報から必要なものを選択、五年では自分の伝えたいことの関連性を考えながら選択、六年では選択した情報を目的に応じて活用という段階性および発展性が意図されている。

学校において、子ども一人に一台のタブレットPCという状況が整いつつある現在、情報活用能力の育成・ICT機器の活用を日常化するには、子どもたち一人ひとりの学びの経験を教職員チームで捉え、共有することが欠かせない。情報活用能力を発揮する学習機会、ICT機器を主体的に活用する学習機会の確保が大切である。また、学びの経験を共有する際は、できるだけデジタル環境の活用が望まれる。

タブレットPCの特性を活かした授業づくりのポ

講 演 要 旨

「新学習指導要領とICT活用上の課題」

香川大学教育学部附属教職支援開発センター准教授

松下 幸司 先生

新学習指導要領（平成二十九年告示）の「改訂の経緯」の冒頭からAI（人工知能）について述べられている。飛躍的に進化したAIは自ら様々な判断をすることが可能になり、私たちの生活の中で、例えば電気製品、医療用機器、乗り物などで活用され、より身近なものとなっている。その一方で、AIが自ら思考・判断できるようになっても、思考の目的を与えたり、その正しさ、美しさを判断できるのは人間のみである。このような時代にあって、学校教育には子どもたちの「変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく」「情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていく」「複雑な情報変化の中で目的を再構築する」力や態度の育成が求められている。

学習指導要領解説【総則編】の第三章「教育課程の編成及び実施」において、各学校においては、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等学習の基盤となる資質・能力を育成していけるよう、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るとある。情報活用能力は、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し、自分の考えを形成していくために必要な資質・能力であり、平

イントは、「個別課題に自分に合った方法でじっくり取り組み、学びの成果を共有する」「試行錯誤の機会を保障する」「まずは使ってみる、子どもたちの着想に耳を傾ける、教師自身も試行錯誤、心にとりを」「学習に必要な活動と思考を妨げない配慮」「児童生徒が主体的に活用できる機会を保障する」「活用目的に焦点を当て、子どもと教師・保護者が活用ルールの合意を形成し、主体性を尊重し運用する」の六点が大切である。



成十八年から文部科学省はICT時代の到来を見据えてその推進を図っていた。学校現場では総合的な学習の時間や特定の教科で進めてゆけばよいとの考えの教員も多かったが、今回の改定では総則で明示されており、それゆえ情報活用能力の育成は全ての教科、教育活動で推進していくことが重要である。

情報活用能力を構成するのは「学びに向かう力、人間性等」（情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を見に付けていること）、「知識及び技能」（情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技術を身に付けていること）、「思考力、判断力、表現力等」（様々な事象を情報とその結び付きの観点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見出す力や問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること）である。情報活用能力は各教科の学びを支える基盤であり、これを確実に育んでいくためには、各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、各教科における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが期待される。大切なことは、日常的に情報技術を活用